

お皿の面積で

どのくらい増えたの？ くらべてみたら、こうでした。

大昔から食べてきた
食べものの中にも含まれる
自然放射性物質

0.4

ミリシーベルト*/年間
(カリウム40など)

事故後に増えた
食べものの中の
放射性物質
(最も増えたところでも)

0.02

ミリシーベルト*/年間
(セシウム137など)

*放射線による人体への影響の
大きさを表す単位

わたしたちの周りには、もともと放射性物質¹⁾があります
もちろん、食べものの中にも

わたしたちは、大昔から、そして生まれてきてからずっと、食べものを口にすることで、毎年0.4ミリシーベルト²⁾分くらい体に取り込んできました
それでは、原発事故後、食べものから体に入る放射性物質³⁾は、どのくらい増えたのでしょうか
厚生労働省など⁴⁾が調べたところ、年間で0.02～0.003ミリシーベルト増えました
これは、今まで食べものから摂ってきた量の、1/20⁵⁾～1/130⁶⁾くらいです
仮に、最も増えた場合(0.02ミリシーベルト/年間)でも、**80年間摂り続けて1.6ミリシーベルト**です

元々受けてきた自然放射性物質からの放射線のほか、どのくらいの放射線を受けると、わたしたちの健康に影響が出る可能性があるのでしょうか
科学的に確認されているのは、**一生涯で100ミリシーベルト以上⁷⁾**です

1) カリウム40などの自然放射性物質 2) 原子力安全研究協会「生活環境放射線(平成4年)」 3) 事故由来のセシウム 4) 厚生労働省・京都大学及び朝日新聞社・日本生活協同組合連合会 5) 福島県の場合 6) 東京都の場合 7) 食品安全委員会

詳しくは、リーフレットや、内閣府食品安全委員会ホームページ
「食べものと放射性物質のはなし」をご覧ください

食品安全委員会 放射性物質

検索

バーコード読み取り機能付き
携帯電話でご利用できます



つくと、たべるを、ささえる。まもる。